

第 1 回 第 2 次平塚市都市マスタープラン検討会議 議事録

1. 日時・場所

- ・平成18年11月28日(火) 14:00～16:00
- ・平塚市役所 南附属庁舎 2階 E会議室

2. 出席者(敬称略)

【委員】

区分	氏名	所属等	備考
学識 経験者	杉本 洋文	東海大学 工学部建築学科教授	
	照屋 行雄	神奈川大学 経営学部国際経営学科教授	
	岡村 敏之	横浜国立大学 大学院工学研究室助教授	
各種団体 推薦者	三浦 清孝	平塚市自治会連絡協議会	
	田中 宏一	平塚商工会議所(商業)	
	石田 庸夫	平塚商工会議所(工業)	
	菊地 繁行	湘南農業協同組合	欠席
	小早川 唯因	神奈川県バス協会	
	上村 文子	女性防災クラブ平塚パワーズ	
	田代 勝俊	平塚青年会議所	
	花本 由紀	平塚市地域教育力ネットワーク協議会	
公募 市民委員	川口 聖子		
	黒部 光司		
	真道 陽一		
関係 行政機関	木村 博	神奈川県平塚土木事務所所長	(代理出席) 安達 誠

【事務局】

氏名	所属等	備考
大藏 律子	市長	
渡辺 貞雄	都市政策部長	
・ 健夫	都市づくり・景観担当部長	
久永 逸雄	都市政策課長	
小山田 良弘	都市政策課都市計画担当課長代理	
石田 晃一	都市政策課都市政策担当課長代理	
今井 宏明	都市政策課都市景観推進担当課長代理	
市川 一雄	都市政策課湘南丘陵担当課長代理	
武井 敬	都市政策課都市計画担当主査	
五島 裕文	都市政策課都市計画担当主査	
平田 勲	都市政策課都市計画担当主査	
中村 正樹	都市政策課都市計画担当主事	
安倍 翔太	都市政策課都市計画担当主事	

作業協力班

氏名	所属等	備考
高尾 利文	株式会社アルメック 第二計画部長	
坂井 雅子	株式会社アルメック 第二計画部部長代理	
矢島 充郎	株式会社アルメック 第一計画部部長代理	
塚越 広和	株式会社アルメック 第二計画部インターン	

3. 議事

【議事次第】(1)開会 (2)市長あいさつ (3)委員等紹介
(4)座長及び副座長の選出 (5)議題 (6)その他

【(5)議題の内訳】

現在の平塚市都市マスタープランの概要
第2次平塚市都市マスタープランの枠組み
平塚市の都市概況と課題
市民アンケート等

4. 配付資料

- ・ 平塚市都市マスタープラン(H10、本編及び骨子)
- ・ 第2次平塚市都市マスタープラン策定調査 第1回検討会議 資料

5. 議事概要

(1)開会

事務局： 第2次平塚市都市マスタープランの改定にあたり、広く意見を求める組織として検討会議を設置した。皆様で平塚市の今後の都市づくりについて十分に議論いただきたい。最初の検討会議なので、「座長及び副座長」が選出されるまで、事務局で進行を務めさせていただきます。

(2)市長あいさつ

市長： 皆様こんにちは。この度は、お忙しい中、第2次平塚市都市マスタープラン検討会議の委員にご就任いただきまして、大変ありがとうございます。また、日ごろより、市政運営にご理解とご協力をいただき、重ねて御礼申し上げます。

さて、都市を取り巻く状況は、高齢化の一層の進展、地球環境問題の高まり、厳しい財政的制約など、社会・経済の根底をなす変化が進んでおり、都市づくりにおきましても、こうした時代の変化を見極め、的確な対応を行うことが求められています。

中でも、人口に関する変化は、都市の様々な面に、根本的な影響を及ぼす可能性があります。人口動向と都市の関係を考えますと、これまでの都市は、人口の増加に伴う拡大・成長が基調でありました。しかし、これからの都市は、緩やかながら人口減少が基調となり、これまでに経験したことのない変化が発生してくることが予想されます。

また一方、全国的な問題として、中心市街地の衰退が共通の問題となっています。これまで、中心市街地は都市の中核的な場所としての役割を果たしてきたことから、都市全体のあり方にかかわる構造的な問題として検討する必要があると考えています。

都市マスタープランは、今後の都市づくりに関する基本的な方針を定めるものですので、このような社会・経済状況の変化に的確かつ柔軟に対応し、都市の活力向上、持続的発展を図っていかねばならないと考えています。

市民の皆様が快適に暮らせ、ずっと住み続けたいと思えるような都市づくり、訪れる人にくつろぎ、楽しんでもらえる都市づくり、産業活動が盛んで活気ある都市づくりを進めていきたいと考えております。

この第2次平塚市都市マスタープラン検討会議は、将来の平塚市の都市づくりの方向性を議論する大事な会議ですので、皆様の豊かなご経験と知識を活かし、熱い議論をかわしていただきたいと思っております。

2 ヶ年にわたる検討となり、お忙しい中、お時間を割いていただくこととなりますが、ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 委員等の紹介

司会より委員紹介

(市長退席)

(4) 座長及び副座長の選出

事務局： 座長及び副座長の選出であるが、第2次平塚市都市マスタープラン検討会議設置要綱第5条第2項により、委員の互選となっている。まず、座長の選出をお願いしたい。

委員： 学識経験者である東海大学教授の杉本委員がよろしいのではないか。

事務局： 学識経験者の杉本委員の推薦があったが、杉本委員でよろしいか。

(異議なしの声)

事務局： それでは、座長は杉本委員をお願いする。

続いて副座長の選出をお願いしたい。

委員： 副座長は、座長になられた杉本委員から推薦いただきたい。

委員： 座長からの推薦ということで、同じ市内の大学の教授の照屋委員をお願いしたい。

(異議なしの声)

委員： 副座長は、「照屋委員」をお願いする。

座長・副座長と議事の進行について、打ち合わせをするため5分ほどお待ちいただきたい。

(打ち合わせ)

事務局： それでは、座長・副座長から一言ずつご挨拶をお願いしたい。

座長： 地元の東海大学で建築、都市計画を専門としている。平塚市では都市計画審議会と景観検討委員会に関わっている。さらに平塚の街についても現在研究中ある。委員は、各界や市民から出ているので、大いに意見を出し合い将来の姿を議論したい。

副座長： もともと会計学が専門であるが、広く企業経営、国際経営についてもかかわらせていただいている。以前、ツインシティの計画について委員を務めたこともある。そんな経験を活かし、座長をサポートし、20年先の素敵で魅力ある平塚市に会いたい思いで、都市マスの策定に関わりたい。

事務局： それでは、要綱第5条第3項の規定に従い、座長に議事の進行をお願いしたい。

(5) 議題

1) 現在の平塚市都市マスタープランの概要

2) 第2次平塚市都市マスタープランの枠組み(資料1)

(事務局より資料説明)

座長： 今日は皆さん初めて顔をあわせるので、今説明頂いたことへの質問と、それぞれの立場からの課題や今回のプランに入れて欲しいことなどを、順番に発言して頂きたい。

副座長： 資料で示された基本的な枠組みは理解できる。都市計画の方針づくりや実施していく

場合の必要な要素も示されていると思う。この資料をひとつの枠組みとして議論し、必要な項目についてその都度補足していくのが良いのではないか。

委員 : 資料はまとまっているのでこれをもとに進められればと思う。「都市の価値を高める」ということを提案頂いているが、価値をどこにおき、そこに引き上げるための目標をどう設定すればよいか、などをここで議論できると良い。

委員 : 平成9年の駅周辺整備委員会が印象に残っている。すばらしいプランが出来たがいろいろ予算などの関係で消えてしまった。今の時代、15年20年先を考えるのは不可能なので、周期を長くしない方が良いのではないか。

委員 : このプランを活かして、20年後の将来に向けての一步一步をどうしていくのかをきちんとしていきたい。行政と商工会議所が車の両軸となって動かないと、商業などは良くなれない。20年後も息子たちをサポートできるよう努めたい。

委員 : 具体的に平塚に住んで良かった、生まれて良かったと思える形を示していかないと、つくただけになってしまう。いろいろ問題があるなかで、例えば交通など、20年後にどういう暮らしがいいのか、平塚全体を考えて形として示したい。

委員 : 全国で交通が問題になっているが、バスについては都市計画と交通計画が一体になっていないという問題があると思う。持続可能な交通計画についてサポートしたい。

委員 : 昔は平塚で買い物をするのが当たり前だったが、今は、主婦も若い人も外に行くことが多い。「平塚なんて」という子どもたちに、「平塚はこんなにいいところだ」といえるようなまちにするべく知恵を絞りたい。

委員 : いろいろな問題がある中でのマスタープランだが、やはり、都市は市民が主役である。市民の声がどこまで反映したプランをつくれるかが、良いまちにするために重要である。市民と協働して良いプランをつくれるように動きたい。

委員 : マスタープランについては、これから勉強していきたい。

委員 : 子育てのために横浜から平塚にきた。20年先の自分や子どもたちの暮らしを考えるのが楽しみでもある。建築の経験も踏まえて、まちづくりに関わっていきたい。

委員 : 平塚に住んで十数年になるが、西部丘陵の山がなくなりふるさとが壊れたというイメージがある。ただ守るのは難しいので、観光、産業などと結びつけて利益をあげるような形で、保全と活性化ができるとう良い。また、まちづくりのなかで、街なかのピンク街にストップをかけられないかも考えたい。

委員 : 外からのお客さんに対して平塚市をPRでき、また、実際に平塚の価値を高めて外からお客さん呼び込めるまちになると良い。この機会に、平塚のことをさらに勉強して一市民としての意見を盛り込みたい。また、日本では1年の単年度計画と10年の長期計画があるが、ヨーロッパでは3~5年のスパンでの考え方があるようだ。中期的な視点を盛り込んでいくことも、提案できたら良い。

委員 : プランを新しくする時に、過去のプランの検証をせずに次のステップに進んでいることが多い。どこが参考になるか、どこが失敗か、違っているのか、などを検証すべきである。また、価値を高めるといえるのは、プランをつくる上で、難しく大きなテーマを持ったという印象である。

座長 : 平塚は湘南商業発祥の地で、神奈川県を引っ張ってきたことのある地域であるが、市民からはその辺の自信が表現されていない。平塚市の魅力を市民自らが外に向かって話せるような雰囲気がまず必要だと思う。そのためにはまちづくりの着地点をはっきりとすべきである。また、今までは「活性化」が期待されたが、これから人口も増加しない中では、「価値を高め質を良くする」ことが都市にとって重要になると考えていきたい。また、市民と共有するためにもこれまでのマスタープランの検証をやって頂きたい。質問がなければ次の議題に進む。

3) 平塚市の都市概況と課題

4) 市民アンケート等

(事務局より資料説明)

- 座長 : 課題やアンケートについて、質問やご意見などを頂きたい。
- 委員 : アンケートは、前回と比べてどのようなところに留意したのか。
- 事務局 : 次期総合計画で行ったアンケートと重複しないように留意した。また、都市の価値を高める点から、活力あるまちづくりや地域資源の保全、土地利用の考え方、交通などについて、踏み込んで聞いている。
- 委員 : このアンケートは、商工会議所と連携してつくっているのか。
- 事務局 : 商業、製造業アンケートは連携しているが、市民アンケートは違う。
- 座長 : 調整して欲しい。
- 副座長 : アンケートの 11 頁に守秘義務について書かれているが、全体に係わることなので文言を少し整理して冒頭に入れる方が良い。
- 委員 : 前回のアンケートの回収率はどのくらいか。
- 副座長 : アンケートの回収率は 3 頁にまとめてでている。
- 座長 : 商工会議所ではアンケートはとっているのか。
- 委員 : アンケートはいろいろな所から来て書いているが、そのあとどうなったのか全く分からない。回収率をあげるためにもフィードバックをしたら良い。アンケートには意識の高い人をつくっていくという意味もあると思う。
- また、サンプル数 5000 は、平塚の人口に対して適切なのか、どう決めたのか。
- 事務局 : 社会統計調査で約 100 票あれば精度のある分析が可能とされている。17 地区で分析するのが一番細かい分析なので 1700 票。約 3 割の回収率と想定し逆算した。
- 副座長 : 統計的には 3 割の回収率というのは十分に有意な調査になる。
- 委員 : むしろ多いといえる。
- 座長 : 17 地区はある程度均等に配るのか。
- 事務局 : その通りである。
- 座長 : 景観のアンケートのように、公表するのか。
- 事務局 : 公表する。
- 座長 : ちなみにこの会議の議事録はどうか。委員の方の了解を得ないといけないが。
- 事務局 : 特に問題が無ければ HP で公開する。会議の冒頭で話すべきであった。
- 委員 : 市民アンケートで、例えば問 2 の 3 の将来の暮らし方や問 3 の 3 の丘陵地のあり方などで、3 つ選んでくださいというのは困るのではないか。対立するものを選ぶのは良いが、問 2 の 1 などではどれも丸にしたい。どう活かすのか、考えを伺いたい。
- 事務局 : 問 2 の 1 は一般的な世論調査の聞き方で、変化を比較するために現在の都市マスタープランのアンケートと同じにした。問 1 の 2 も確かに難しいと思うが、駅周辺でどの辺が重要かなどをぜひ聞きたい。
- 委員 : 例えば問 1 の 1 は順位をつける話ではないのではないか。方向性よりも「今満足しているか」「どんな不満があるか」をきいて、そこから議論した方がいい面もある。言い方を変えるだけでも違うと思うので、考えて頂きたい。問 3 の 1 もむずかしい。
- 座長 : 事務局は検討して欲しい。

- 副座長： 基本的な方針についてこれから議論するために、市民の意見を聞くわけである。その場合のアンケートとして、考えられる項目からいくつか聞く場合、答える人が、特に重要だ、問題だ、こうあるべきだ、というのを、現状を評価して複数回答することになる。答える人の評価や価値を意志表明するという形なので、今の聞き方は客観性を持っていると思う。むしろ、その分析や利用について、しっかり検討する必要がある。
- 事務局： 2頁でアンケートのプランへの反映について示している。将来の都市像を考える根拠として市民の意見を把握したいと考えている。アンケートの他にも直接意見を聞いたり、この会議からも意見を頂く。設問の聞き方についてはもう少し検討する。
- 座長： このアンケートは、前回のアンケートとどの程度同じなのか。
- 事務局： 前回と同じように聞いて現在のプランを評価することも検討したが、回答しにくくなるので頁数は多くしない方が良く考えた。その上で、交通、農地、丘陵地、海岸をどうするかなど、聞きたい部分について直接的な聞き方をしており、難しいとは思う。
- 副座長： 今回は交通に関する設問が多くなっているが、前回の調査では交通については不十分だったということか。
- 事務局： 不十分だったわけではない。今、神奈川県下の都市計画道路の見直しや、環境問題からの車から公共交通へのシフトの流れなどがある。一極集中型の都市構造を持つ平塚市では大きな問題だが、必ずしも綿密には議論されなかったので、今回は手厚くしたい。
- 委員： 先ほど都市の価値という話があったが、住んでいる人は実際には近くの街と比較して価値がわかるのではないか。そのため、周りのまちと比較してはどうか、平塚でもっと買い物したいかなど、比較の考え方を入れた聞き方を検討して欲しい。
- 委員： まちづくりに関心のある市民の立場からは、一番知りたいのは問1の3の「都市の価値を高めるために重要なこと」である。フリートークのような形でもっといろいろ市民の意見を取り入れてはどうか。
- 座長： 問1の3は今回のプランの大きなポイントである。また、平塚を選んだ理由などから平塚の魅力もわかってくるので、今後工夫できると良い。
- 委員： 性別は聞かないのか。男女に聞いて初めて分かることがある。子育てでも違いがあるので。アメリカでは虐げられていないか知るために人種を聞いている。
- 事務局： 優先順位として、年齢・職業・家族構成などが上だと考えたが、そういう視点も重要だと思うので性別も入れたい。
- 委員： バス交通では、要望は実態とはかけ離れている。他の交通アンケートでは全てのこと求められてしまい、本当に欲しいものがわからなかった。実態を聞いた方が良いが、このアンケートではこの内容で良いかと思う。
- 座長： 事務局は参考にして欲しい。
- 委員： 今はホームページもあるので、興味のある人や抽出されなかった人も参加できるように、新しい形のアンケートを考えても良いのではないか。
- 事務局： 外から来る人にも使い勝手などについて街頭インタビューをする。また、基本構想が出来た時にパブリックコメントで広く意見を聞く他に、懇談会を開催したいと考えてこのアンケートで呼びかけをしている。

なお、17年5月に行った次期総合計画の詳細なアンケートについて、資料3の4～5頁に示しているので補足したい。同じようなアンケートにならないよう留意したので、参考にして欲しい。

事務局： 17年5月の調査では殆どの項目について、整備の重要性や満足度、方向性まで含めて聞いている。今回のアンケート単独でみると足りない部分もあるかと思うが、このプランでは17年5月のアンケート結果をそのまま受けて、それに今回の調査を加えるという形であることを補足する。

座長： 次期総合計画のアンケート結果がまとまっているのであれば、次回委員の方にわかるように説明して頂きたい。

副座長： 最近はインターネットで回収する方法が多くなってきた。ウェブサイトに自由に意見を頂いてはどうか。

委員： 直近の調査できっちりやっているなら、今回はインターネットで回収するのが良いのではないか。費用面でもだいぶ違う。

副座長： 前回との重複については留意しているということだった。これからはネットを利用して、日常的に意見を頂くという形も整備していけると良い。

座長： 検討して頂けるか。

事務局： インターネットは良い面もあるが、逆に、意図的に方向を操作しようとするときなぐはない。その辺もうまく整理して検討していきたい。

委員： 現状として把握しなければいけない点についても、アンケートから抽出して反映してもらいたい。また、まちづくりの課題は、今後もっと詰めていくようお願いしたい。

事務局： 今回はまず、統計データから整理した問題・課題を示している。これにアンケート結果やこの会議の意見も含めて整理していく。

座長： 他に意見はないか。それでは、事務局から連絡をお願いする。

(6) その他

事務局： 事務局から2点連絡する。今日頂いた宿題やアンケート結果をまとめて次回報告する。次の検討会議は、1月30日を中心に調整をして連絡する。

(7) 閉会

座長： 長時間ありがとうございました。第1回の検討会議を閉会します。